〈解答〉

1　1　①　潮風　②　すず　③　筆　④　う

2　ぼうじゃく　3　ア・オ（完答）　4　オ　5　10　6　オ

配点　1 3は2点、他は各1点　10点満点

〈解説〉

1

1　①　「潮」の音読みは「チョウ」で、「干潮」「満潮」「潮流」などの熟語として用いられる。語順を入れ替えた「風潮」は「フウチョウ」と音読みになる。

②　「涼」の音読みは「リョウ」で、「荒涼」「清涼」「納涼」などの熟語として用いられる。「涼しい顔」は「自分が関係しているのに他人事のような顔をしている様子」を表す慣用句。

③　「筆」の音読みは「ヒツ」で、「鉛筆」「筆記」「毛筆」などの熟語として用いられる。「筆舌に尽くしがたい」は「言葉では到底表現できないほどものすごい状態」を表す慣用句。

④　「浮」の音読みは「フ」で、「浮上」「浮沈」などの熟語として用いられる。「浮かない（ぬ）顔」は「晴れやかでない顔つき」を表す慣用句。

2　「傍若無人」は「人の目を気にせず勝手気ままにふるまうこと」を意味する四字熟語。中国の史記に出てくる「旁若無人者」という言葉が由来で、訓読みにすると「傍（かたわ）らに人無きが若（ごと）き」となる。

3　ア「長い」は形容詞、イ「つややかな」は形容動詞、ウ「て」は（接続）助詞、エ「た」は過去を表す助動詞、オ「ある」は動詞。

4　「女神」は「女の神」と読むことができ、上の「女」が下の「神」を修飾しているという関係により構成されている熟語で、オ「濁流（＝濁った流れ）」と同じ構成となっている。ア「添加」は、「添える」「加える」という似た意味の漢字を重ねた熟語、イ「補欠」は、「欠を補う」と読むことができ、下の「欠」が上の「補」の目的語になるという関係により構成されている熟語、ウ「市営」は、「市が営む」という意味で、「市」が主語、「営」が述語である熟語。エ「不慮」は、上の「不」によって下の「慮」の意味を打ち消している熟語である。

5　「皿／の／ふち／に／青く／光る／紅／を／溶かし／て／虻／や／蜻蛉／の／絵／を／かい／た」と単語に分けた上で自立語を抜き出すと、「光る」「溶かし」「かい」（動詞）、「青く」（形容詞）、「皿」「ふち」「紅」「虻」「蜻蛉」「絵」（名詞）の10個になる。

6　「雲」とオ「紫」は十二画の漢字、ア「粗」とエ「袋」は十一画、イ「滑」とウ「睡」は十三画。